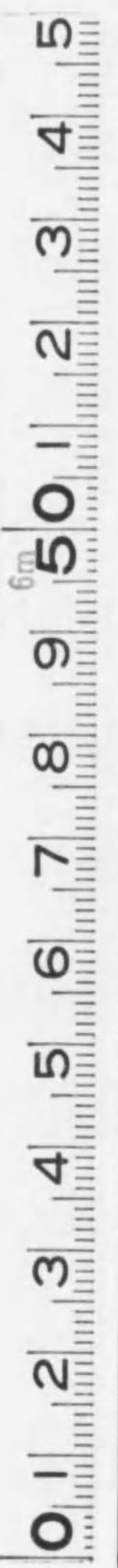




始



32

文學博士 桑田芳藏 教授述

「心理學概論」

(三) 終

昭和十二年度

東京帝國大學文學部講義

「帝大プリント聯盟」發行

373  
2  
407

精253  
815



論上(三)

第十七章	時間知覺	.....	(179)
第十八章	聯合	.....	(185)
第十九章	想像及び思考	.....	(195)
第二十章	感情	.....	(206)
第二十一章	意志	.....	(220)

【以上、終り】



第十七章 時間知覚

時間知覚の心理学は空間説よりも後れて発達した。そして、その時間に関する時間説も初めの頃は、時間といふものは意識自体に特有な、又、凡ての意識内容に起るところの一つの性質であると考えられており、それ以外の説明は不可能であると考えられていた。

この考へ方は哲學、経験説でも、Kantのやうな先天説に於ても同様であつた。だがこの両者の区別は前者に於ては時間は内的経験の内容であつて外界の刺激、表象の連続に結合してゐるものであると考えられていた。所がKant流の考へ方で曰くとa prioriの直観の形式であつて之によつて内的経験が可能になると考へてゐた。

之が時間知覚に於ける生得説と経験説の対立の初めである。これらの考へ方は哲學的であるが、初めて心理的考察を施したのはHerbartである。即ち、時間といふ表象は一つの表象の系列が段階的に結合するのだといふ風に説いた。

心理学  
(3)

外

然し乍ら、これは経験的の証明を欠いておいて論理的の考察に過ぎなかつた。

この後に時間知覚の實驗的研究が起つてきた。それは前述した Weber の触覚研究に倣されて Czermack、次いで Vierordt (19 c. の中ば頃) によつて始められた。従つて、Weber の Raumsinn とか Ortsinn に倣つて Zeitsinn という言葉が用ひられ始めた。前者 Czermack に於ては時間知覚は空間的運動の速度の知覚と同一に考へられてゐた。従つて、時間知覚の独立の研究ではなかつた。然し彼が初めて時間閾 (Zeitschwelle) という言葉を用いた。然し之は後の用語の意味と違つて速度の速度閾の位置といふことであつた。ところが、Vierordt に至つて時間閾の意味が變つて今日の意味になつた。即ち、比較し得る最小の時間といふ意味である。普通心理學では、例へば、聴覚知覚では  $16 \sim 20$  秒 (シグマ =  $\frac{1}{100}$  秒) の間ではないと分らない。

触覚、では 27

視覚、では 43

かういふ意味では時間閾を用いた。

そして、彼の研究しつゝは利裁と利裁との間の空の時間を問題とした。そして、時間といふものは時間内容とは独立な特殊の感覚であると考えた。然し、これも實際は空な時目ではなく、意識内容で充たされてゐる。そこまでは見ておかなかつた。かく内容とは別な特殊な感覚であるといふのは尚、Kant の *a priori* の考へ方に負ふところがある。

それから、Mach に至つて Kant の説を離れて時間は特殊の感覚である。そして、他の感覚と違ふ点は凡ての直接又は再生された他の感覚 (意識内容) と結合する点である。そして、時間知覚はその本質を注意作用の中に見出した。即ち、努力的の注意に於ては時間はより長く感ぜられ、その反対に絶対的の安静や夢のない眠 (熟睡) には時間は全くないといふ。そして、彼は時間知覚は特に聴覚的であるから、(耳でもつて時間を聞く場合が最も正しい。

時間の区別は鼓膜の緊張の程度によつて考へたのであるが、後にはこの考へ方をやめて注意の方にもつて行つた。

所が、緊張の考へ方が *Münsterberg* にな

つて凡ての筋肉感覚に換げられて行つた。そして筋肉感覚は常に存在してゐるものであるから、それからして時間の *Continuity* (連続) を説明しようとした。然し乍ら、如何にしてその筋肉感覚が時間知覚になるかは明かにされなかつた。更に *Mach* の注意説を *developpe* したのは *Schumann* であつた。

彼は注意の他の方面、即ち、期待と驚きとの現象に結びつけた。即ち、時間表象を感官的注意の態度 (*Einstellung*) の中に見出した。それで時間の大小に関する判断は期待及び驚きに関すると考えた。即ち、長いと判断するのは期待に、短いと判断するのは驚きに関係するのだと考えた。そして、その様な説明で不充分の時は筋肉感覚、殊に、呼吸のリズムの感覚を持ってきて説明する。

又、かゝる時間知覚の内容に関する学説とは別に、それと感覚との関係についての一群の説がある。それは時間を以て感覚の属性の一つと考へるのである。それは *Ebbinghaus* や *Titchener* の考へ方である。さう説くと時間知覚の説明が楽になる。ところが、それに反し

て、感覚それ自体には時間といふ属性はない。けれども、感覚が結合するとき初めて時間といふ性質が生じて来るのだといふ一派が之に對立する。即ち、時間的でないものから時間が生ずると考へる。

その代表者は *Lippis* や *Mundt* である。殊に *Mundt* に於て詳しく説かれてゐる。彼の説によれば、時間表象といふものは感情要素と感覚要素の融合から成り立ってゐる。その感情とは、緊張、弛張の感情でそれらの感情は時間の推移と共にその性質を異にするといふ。それは感情の要素であるが、ところがその感情に伴つて矢張り感覚があるといふ。その感覚の中で一つは音の感覚、一つはさういふ容観的刺戟の他に内融覚がある。さういふ感覚の要素と前の感情の要素が融合するのであつて、個々の物には時間といふ感覚はないといふ。かゝる時間的でないもの (非時間的) から時間的なものが出るといふ考へ方は空間知覚の場合と同じやうに説かれる。之に對して前に述べたやうな、無から有が生ずる考へ方ではないのかといはれる。然し、與へられたものが時間知覚で、それを分

析すれば、色々の感覚なり感情が得られる。さうなれば、その分析されたものに時間性がないとして差支へない。Wundt 流の行き方では感覚が結合して知覚が生ずるといふことなるのである。

ではどういふ要素 (Factor) が時間知覚をなしてゐるかといふことに関して Wundt 流の考へ方は非常に包括的の説明である。それで今述べたやうな刹那の時間的の系列といふ場合にはよく当てはまる。それを代表的なものとすれば差支へないが、實際の時間知覚に於て、それだけの Mechanism が備はつてゐるとは考へられない。例へば、時間間隔の如きはさうである。又短い時間に於ても当てはまらない。かゝる場合には緊張感情の強度、或は、感覚の変化だけが考へられてくる。

## 第十八章 聯合

### Association

Association といふ言葉は前に联想心理学のところで述べたが、廣狭兩義に用ひられる。

廣い意味では精神作用の結合を意味する。但し、その結合が意志的に結合されない場合をいふ。或は他の言葉でいへば、passive な機械的な場合をいふのである。

狭い意味では、联想心理学悉くを意味する。又通俗に用ひられるところでは、或る觀念と觀念とが時間的に相次いで起る場合である。即ち、廣い意味の聯合の特殊の場合を意味するのである。即ち、回想聯合を意味する。こゝでは廣い意味で用ひる。狭い意味では、联想とか、觀念聯合とかに當る。

聯合を以て觀念結合と考へるならば、そこに色々の種類、形式が考へられる。

第一に挙げられるのは融合である。

この場合には、色々の内容が密に結合して渾然たる一体をなしてゐる場合で、化学でいふ

らば化合にあたる。従つて、この場合に當つては結合といふ性質よりも、結合された全体が目立つてくる。そして勿論、その場合に於ては、個々の職分が雜然として集合してゐるのではなくして、主なるものと副なるもの (*neben*) とに区別されて、そこに統一が出来てゐるのである。その代表的な例は、知覚がそれである。勿論、聯合作用といふのは必ずしも精神の知的の方面に限られたものではない。たゞ知的の方面に於て著しく現はれてくる。例へば、調音の知覚の場合に於て振動数の割合でいふと、100振動、200振動、300振動の音があつてそれが合つて一つの調音といふ渾然たる一体となつてゐる。そしてそのとき主となつてゐるのは原音である。その他は音色である。そしてこの場合の *Factor* の結合が密であるために調音として知覚してゐるで、その全体的のものを我々は調音といつてゐる。それを結合の方面から見て聯合を推するるのである。

第二の *association* の形は同化 (又は、類化) と異化 (又は、對比) (*association and dissimilation*) である。

これは一つの意識内容が他の内容を変化して自分と同性質のものにすること、それが同化であり、反対に他を自分と異なる方向に変化させるのを異化 (対化) といふ。

前述の融合の場合には影響の方向を考へてゐない。この場合には、考へ方が二様になつてくる。そしてこの場合は一方的のものではなく、相互に同化、異化の作用をさすのである。では如何なる場合に起こるかといふと両者の差の小なる場合に同化現象が起る。そしてその差が大きくなって一定の限度を越えたと異化の現象が起る。(ぐつと大きい人とぐつと小さい人とが並ぶと、大きい人はぐつと大きく又小さい人はぐつと小さく見える。同程度の人が並ぶとその差は著しく現れない。)

ところが、同化、異化の場合には何れにしても同種類のもの同種類の感覚に属してゐる事が必要である。さういふ場合に、同化、異化の現象が起る。ではその種類の違つた感覚に属するとどうなる。

即ち、それは混化となる。茲に第三に混化 (*Complication — Iderbart* が初めて用

ひ出した)の現象が起る。かく異質のもの、場合は同化、異化の現象を起し得ずして、それを混合したり、複雑化したりするに過ぎない。即ち、その主なる成分に副成分が附随して結合してゐるやうに考へられる。それほど結合が密になり得ない。(例へば、黄色い聲といふときには、音と色とが結合してゐる場合である。勿論、この場合は聲といふ聴覚の方が主で黄といふ主観的の要素が結びついてゐるのである。之を共感覚といふ。甘い恋、苦い経験、世の辛酸を甜るといふ如きは世の一般の経験と味覚と結びついてゐるのである。その他、鉄砲を見れば弾の音が聞え、刀を見ればヒヤットするが如きはこの混化である)。

第四は、再認と認識 (Cognition and recognition: Erkennen und Wiedererkennen) である。

これは一度経験したことに再び出逢つた場合に之は曾つて経験したと見るのが再認で、この場合は現在の経験と過去の経験との間の聯合になる。前に述べた同化作用や混化は過去の経験が與つてゐるのである。然し乍ら、再認の場合

になつて初めて過去の経験として意識されるのである。勿論、その意識が漠然たる感情の意識である場合もあり、はつきりしたのものもあるが、免に角、過去といふ意識が浮んでくる。そして再認が行はれる場合にははつきり過去の経験が浮かないで、それが漠然たる感情に留つてゐる場合もある。この場合、親しみ (familiarity) の感情といはれる。再認といふ場合は單に聯合作用を意味するのであつて、再認が困難になつた場合には一種の論理作用となつて聯合作用ではない。

ところが、認識の場合は初めてのものに出逢ふ。そして、その場合には勿論過去の経験としてそれと同種類のものには度々あつてゐる。そして、過去の経験と現在の経験との聯合が行はれる場合は認識となる。勿論、この場合は論理的なものではなく、*sinnlich* なもの、ことである。(新しい机を見た場合に過去の同種類の机を見たことより机だと認識する)。さういふ認識が土台となつて論理的の認識に進んでいく。

再認及び認識の場合に於て、包攝の作用が行



はれておるのではなく、過去の経験と現在の経験とがあつてその両者が結合してしまふのであるが、さうではなくして、過去の経験が現在の経験に対して独立に浮んでくる場合がある。これが最後の種類の狭い意味の聯想になる。

第五は、回想 (*Erinnerung*) と稱するものである。

前述の認識及び再認の場合に於ては過去の経験が *reproduce* されて、而も、それが過去のものであるといふ感じを伴つてゐる。然し乍ら、その二つの現在の経験と過去の経験とが同時的に一つの働きとなつて再認なり、認識の働きが出来る。ところが、この回想の時には過去の経験が現在のそれに *independent* なものとして浮んでくるのである。即ち、現在の経験と對立する。これは狭義の *association* と稱せられるものである。

再生 (*reproduction*) とか記憶等とかいふ語が用ひられるが、その嚴密なる意味は *reproduction* なる語は過去の経験が再び浮んでくるのみを意味するのである。記憶は漠然たる意に用ひてゐるが、多くの場合、過去の経験

を把持 (把住 *retention*) するところの能力を指してゐるのである。ところが、回想のときは過去の経験が再生するばかりではなく、現在の経験と相對立するのである。又、独立に浮んでくることを意味してゐるのである。

扱て、かくの如く回想の表象、回想心像の性質は如何なるものであるかといふと、此の二つは知覚と比較してみると、普通の考へでは實物の *copy* とが寫眞であるとか、模寫の様に考へられるのであるが、それとは大分違った点があつてこの二つはよほど性質を異にした点がある。

一般にいへば、回想心像はその感覺の強度が小さい。のみならず、不完全で而も変化し易い。その点を面白く云つてゐるのは、詩人 *Goethe* である。

目を閉ぢ頭を垂れ一輪の花を憶ふときには、その花は暫くも初めの形を留めないうで破れて了ふ。そしてその中から新しい花が更に現れて出てくる。そして、その花は自然の花ではなくして想像的ではあるが、彫刻家の作つた花の如く規則正しいものであつた、といつてゐる。

これは、我々の普通の経験でもすぐ分る。友

達の観を憶ひ浮かべてみると、同じやうなことを経験する。かく知覚からその再生心像に至るまでに色々な段階が考へられ、その心像が最もはっきり現はれるのは回想の場合で、その他の *association* では現在の経験と一緒になつて終ふ。かゝる点より回想心像が一層注意を惹き、所謂、英國に起つた联想心理学は之を考へてゐる。

ところが近來になつて知覚とそれの回想心像との中間の形として直観像 (*Anschauungsbild*) といふことをいふ。之は *Juensch* が言ひ出したことである。之は實際のものがなくて、而も實物があるやうに感ぜられる。そして而も回想心像の如くぼんやりしてゐない。

もう一つの問題は過去の経験を蓄へて置く把任のことである。即ち、過去の経験が出てくるにはその跡が残つておなければならぬ。勿論意識的のものではない。その根跡は時がたつに従つて色々変化してくる。單にぼんやりするだけでなく色々変化される。それがどういふ風に変化してゆくかといふことは今の心理学で問題になつてゐることである。

それからの联想全体としてみると、殊に回想の場合を考へると所謂联想の法則が立てられて結局二つのことに落着く。接近と類似 (*Contiguity and Similarity*) である。所が之に対して假に接近とか類似を許すとしても、その意味が問題になる。類似についていつても近頃の考へ方では單に部分 (*Part*) が結合してゐるだけでは結合し難い。全体の中の部分が類似しないと結合しない。(例へば、*ク*の形より *ケ*の字は思ひ浮かばない。) 近頃では類似といふことの意味が更に嚴重に考へられてゐる。

接近の方については、單なる接近も *association* に充分であるかといふことも問題となる。例へば、電話番号と人との関係は電話を何回かけても番号を見なければ分らないといふ人もある。單なる接近では駄目で、その場合に何か内面的な関係のある場合、意味の関係のある場合には联想が付き易い。

联想について前二つの学派として联想心理学の学派を述べたが、ここでは聯合 (*Association*) と関係してその学派を考へてみる必要がある。联想心理学は心理学に於て説明的の形

を與へた。この意味で歴史上重大な貢献をして  
 いるのは云ふまでもない。然し、その考へ方  
 の中には可成りの困難が含まれてゐる。その主な  
 点は、〔第一〕 *idea* (觀念) を固定的 (*fix*)  
 なものに考へたことである。即ち、恰も *physi-*  
*cal* な *thing* を物の如く考へてゐる。所が、  
 我々の考へは常に变化したものであつて、知覚  
 が表象になると既に變つてくる。表象でも浮ぶ  
 時により色々異なる。之は意識一般論にのべたの  
 であるが聯想心理学ではこの点を見落してゐる。  
 〔第二〕所謂回想聯合即ち、回想の場合を主と  
 じて考へてゐる。Herbart は心理学では聯想  
 はもつと狭い意味に考へてゐる。ここに欠点か  
 ある。〔第三〕聯合を主として居り、それ以上  
 の想像・思考を輕んじてゐることである。より  
 高等なより重要な精神作用を聯合に帰着せしめ  
 て、それ等の特殊な重要な作用を見落してゐる。  
 〔第四〕我々の精神生活を原子的 (*atomic*)・  
 機械的 (*mechanic*) に説明せんとしてゐる。  
 この考へ方は特に近頃の心理学に全体とか形態  
 を論ずる者にとつては最もきはれてゐるので  
 ある。

## 第十九章 想像及思考

前章に述へた聯合作用ハ、機械的 *passive*  
 ナ作用ヲ、ソコニ意志ノ働イテキナリ。ソレニ  
 対シテ活動的ナ有意的結合作用ガアル。夫レガ  
 想像ト思考ヲアル。

思考 (*Denken*, *Thought Process*) コ  
 ノ思考ノ語ハ狭イ意味ト広イ意味ニ用ヒラレ、  
 狭意ニハ想像ニ対立スレ言葉ヲアツテ、論理的  
 思考ト云フ意味ヲアル。コ、テハ、コノ意味ニ  
 用ヒル。広義ニ用セルト、ソノ中ニ想像モ含マ  
 レル。時トシテハ、概念ニヨツテ考ヘルノガ、  
 思考ト想像ニヨツテノ思考ト云フ場合ガアル。

斯カル意味ノ *Denken* ハ 両方ヲ括メテホ  
 ル。或ハ統覚 (*Apperception*、前ニ之レヲ  
 明覚ノ意味ニ用ヒ、*Perception* 暗覚ガ之レニ  
 対立シタ) ト云フ言葉ガアツテ、之レハ、聯合  
 ニ対立シテ想像及ビ思考ヲ含ム。然レコノ統覚  
 ノ語ハ、統一カト云フ様ニ意味ヲ聯想シ易イノ  
 テ、*Wundt* ナドハ、避ケテ余リ用ヒナイ。  
 モット広イ意味ニ思考ヲ用ヒルト、ソレハ、

(196)

意識一般ト云フ様々意味ニナル。茲テ用ヒルハ論理的思考ト云フ事カ、ルニイ意味ニ用ヒル。

想像 (Imagination) ハ、前ニ云フ同想ニ近イ。レガ一步進ニト思考トナル。想像ト思考トヲ比較シテミルト、両方、性質カヨク余ルガ。想像、方ハ、経験、内容ソノモ、ガ、關係ヨリモ空キヲ為シテキル。所ガ、思考、方ハ内容相互ノ異同、ソノ他、論理的ノ關係ガ主ニナツテキル。例ヘバ、「美シイ花」ヲ想像スル場合ニハ、心ニソノ *Bild* (心像) ノ浮バルタケテアル。所ガ思考ニナルト、「美シイ」ト云フ性質ト「花」トイフ物トノ關係ヲ考ヘテキル。即チ、性質ト対象ノニツノ概念ヲ考ヘテキル。故ニ、想像ハ直観的具體的ト云ハレ、ソレニ反シ、思考、方ハ概念的、抽象的ト云ハレル。ツマリ、一方ハ内容、一方ハ關係ヲ主トスル。

想像ハドウイフ性質ヲ有ソニキルカ。之ハ、單ナル同想ノ *Process* トハ異ル。勿論、ソノ材料ハ斯合ヨリ供給サレテキル。然シテ、ソレ等ノ材料ガ同想ノ場合ノ如ク、大体<sup>ニ</sup>源泉、経験

(197)

ノ値テナフ、新シイ形ニナツテ現ハレテ来ル。例ヘバ、一定ノ或ル風景ヲ憶ヒ起スト云フノハ單ナル同想ヲアル。所ガ、画家カ或ル風景ヲ選ビントスル、斯カル時ハ色々ノ山水ヲ *Select* シテ、自分ガモツト良イト思フ山水ヲ採リ上ゲルノチアル。一定ノ山水ヲ画クニシテモ、寫真トハ違ツテ餘トナル場合ニハ、ソコニ反給逆<sup>ニ</sup>カ行ハレテキルノチアル。此ノ新シイ組合セガ、意識上ノ事實トシテハ、新シイ、ト云フ風情ヲ伴フ。ソノ事ハ、實語、*Poet* ノ語源ヲ考ヘテモ分ル。詩人ハ詩ヲ作ルモノチアル。

*Poet-maker* チアル。Artist ハ *fitter Joiner* チアル。新シイモノヲ作ルト云フ所ガ再生チナフ、單ナル *Memory Association* トハ違フ。一步進シテ其チアル。然シトラ、ソノ想像作用ヲ普通ニ種ニ分ケ、受能 (Passive) ト能動 (Active) ノ想像ニ分ケル。

又、コレハ有意的ノ程度ニヨツテ區別スルノチアリ。前者ノ場合ハ自分ノ持ニ為サントスル行為トカ、自分ノ行ス先(將來)トカ、或ハ過去、未経験ノ出来事ヲ想像スル様々場合ハ、*Passive* ノ例チアリ。後者ハ、藝術家ノ制作、

技術家ノ発明ノ如ク、一定ノ目的ヲ有テ、一定ノ計画ニ従ツテヤルノヲアル。故ニ *passive*ノ想像ハ時トシテハ *reproductive image* (再現的 —) トモ呼ハレル。後者ノ場合ハ、*productive or creative or constructive image* ト云ハレル。

想像作用ノ経過ヲ見ルト、先ツ始めニ、漠然タル表象ノ一群ガ浮ス、ソシテソレヲ組立テ、キル個々ノ表象ハ明テナク、又全体ガ意識ニ浮ンデキル。ソレヲ全体表象 (*Gesamte Vorstellung*) ト云フ。コノ言葉ハ無理想像ノ場合ニ限ツタモノデハナイ。ソマリ全体ノ表象ガ、ボンヤリ浮ス、ソシテ全体表象ハ徐々に突如トシテ浮ンテ来ル事ガアル。靈感、奇想天外等、言葉ガコノ事ヲ現ハシテキル。次ニ全体ノ中カラ個々ノ表象ガ順次ニ明カニナツテ来ルモノナル。而シテ、ソノ場合スモ、單ナル分離テナクシテ、個々ノ表象ガ一定ノ聯関ヲ持ツテキル。カ、ル場合ヲ分節 (*Gliederung*) ト云フ言葉ヲ現ス。ソシテ、ソノ分節ヲ経テ最後ニ又全体表象ガ浮ンテ来ル。画家ノ風景ヲ画ノ場合ニ、先ツ全体ノ山水、次ニ山、水、家等ガ分節トシ

テ浮ンテ来ル。ソシテ最後ニヨリ頭ラカク表象ガ浮ンテ来ル。所ガ、斯ク分節ヲ行ノ場合ニ、徐々に聯合作用ガ入ツテ来ル。ト云フノハ、最初ノ全体表象ニ含マレテキナカク表象ガ *association* ニヨツテ浮ンテ来テ、ソレガ全体ノ中ヘ入ツテ来ル。最初ハ、*abc* ガ全体ニ含マレテキメノガ、次ニ *a*, *b*, *c* ニ分節サレ、ソノ後、*m* ガ *association* ニヨツテ入ツテ来テ *abmc* ト全体表象ニナル。コレガ普通ニナル。殊ニ芸術上ノ作品テ長イ年月ヲ學スルモノニナルト、コノ順序ガ著シイ。Goetheノ“Faust”ノ馬琴、「ハズレ」ニナルト、首尾一貫シテキナイ異ガ出テ来ル。ト云フノハ、最初ノソノ考ヘ方ヲステタリ、或ハ新シイ考ヘ方ガ入ツテ来テリスルカラキアル。コレガ想像ノ大体ナル。

思考ニナルト内容ヲソテ論理的ナ關係ガ主ニナツテ来ル。コノ思考ノ場合ニ於テモ、想像ト全ク線ニ全体表象、ソレニ次イテ、分節ガ行ハレル。勿論ソノ全体表象モ想像ノ場合ト思考ノ場合トハ違ハネバナラス。即チ、コノ場合ニハ大体ノ筋ガ浮ンテ来ル。忽ニ前、全体表象ガアリ、ソレガ分節スルガ、想像ノ場合ニハ幾ツ

=モ分レテヨイカ思考ノ場合ニハニ分節ノ法則  
 =從ツテ分レルノテアル。ソノ事ハ言語ノ形ニ  
 直接ニ表ハレル。全体表象ニ現ハレルノハ、文  
 全体ノ意味、個々ノ表象ニ表ハレルノハ、個々  
 ノ語ガソレニ当ル。即チ、吾々ガ一ツノ文ノ形  
 ヲ分析シテ行フト、先ツ *Subject* ト *Project*  
 ニ分レル。ソレカラ、主語ガニ分スルナラ、形  
 容詞ト名詞ニナル。説明語ガ分節スルナラ、動  
 詞ト副詞或ハ動詞トソノ目的語、更ニソノ  
*Object* ガ分節スルナラ直接ト間接トニ分レル。  
 コノ問題ハ言語ノ心理学ノ問題ニナル。斯ク、  
 ニツノ *Sentence* ニ分レル簡單ナル場合ニモ  
 全体トニ分節ノ形ヲトル。之ガモツト複雑ナル形  
 式ニナルト、全体表象ノ分節ト云フ事ハ同じ様  
 ニナル。例ヘバ、論文ニハ序論ケ全体表象、本  
 論ノ各節ガ分節、結論ガ、後ノ全体表象ニ当ル  
 前述ノ如ク思想トシテノ全体表象ガ分節レシ  
 モノガ色々ノ *sentence* ノ形トナリ、ソノ中  
 ノ特別ノ形、即チ叙述文ニ現レタモノガ判断ニ  
 ナル、コノ英カラ見ルナラ判断ハ一面ニ於テ、  
 分析的テアツテ、他面カラ見ルト綜合的ノモノ  
 テアル、即チ全体表象ガ分レル英カラ見レバ、

分析的デアルガ、ソノ分レテ節ガ常ニ論理的ニ  
 結合サレテキテ單ナル分離ヲナイ莫ヨリ見レバ  
 綜合的ト云ハネバナラナイ。故ニ判断ニ於ケル  
 分析、綜合ノニ學說ノ論争ハ、白ノ *Process* ノ一  
 面ヲ見タモノニ過ギナイ。

次ニ、分節ノ結果生ジタ思想ノ各部分、即チ  
 概念ノ性質ニ就イテ考ヘテ見ル。概念ニ就イテ  
 ハ層々次、如キ説ガ行ハレテキル。概念ヲ浮ベ  
 ル場合ニハ、或ル表象ガ浮ンテ来ル。ソシテ、  
 ソノ表象ハ多クノ特殊ノモノカラ<sup>×抽象</sup>抽象シタモノ  
 テアル。例ヘバ、赤、青、黄ノ特定ノ色ヲナイ  
 所ノ特定ノ色ノ表象ヲ浮ベル事ガ出来ルト論ス  
 ルノテアル。然シテ、實際ハ出来ナイ事ヲ、  
*Barkley* ガ否定シタ所テアル。

又概念表象ヲ以テ複合寫眞ニ比較スル事ガ出  
 来ル。ソシテ、概念表象モ之ト同じモノテアル  
 ト云フ説ガアル。所ガ、之モ實際ハ事實ト違フ。  
 我々ノ表象ト云フモノハ何等カ特定ノモノニ関  
 係シテキル。唯、時日ガ経過スルニ從ツテ、ソ  
 ノ表象ガボンヤリシテ来テ、ソノモノノ模型ニ  
 近イモノガ浮ンテ来ル事ガアル。ケレトモ、如  
 何ヤウニ再生シタ表象ガボンヤリシテキコウト

モ、矢張ソレハ約定ノモノニ關係シタモノニア  
 ツテ、ツマリ同種類ノモノノ共通ヲ抽象シテ  
 出来クモノアハナイ。アハ、斯クノ如キ再生表  
 象ト概念表象ノ異ル處ハ何處カ、トニフト、ソ  
 レハ兩者ノ性質自身ノ差ヲナク、他ノモノト、  
 開解スル時ニ現レル。即チ、概念表象ハ幾ツカ  
 ノ表象ヲ代表シテキルト云フ莫クアル。即チ、  
 文脈 (Context) ニ於テ、ソレガ知ラレル。

ソシテ、普通ニ概念ヲ浮ヘル場合ニハ、ソノ  
 代表表象ト共ニ、語ノ表象ガ浮ルノテアル。ソ  
 シテ、ソノ概念ガ抽象的ニナレバナル程、代表  
 表象ハ浮ビニフ、ナツテ、概念ハ表象サレニク  
 ナリ、遂ニハ、語表象ガ之ヲ代表スルヤウニ  
 ナル。例ヘバ、哲學ヒ、有無、因果、如キハ、  
 之ヲ代表表象ニ浮ヘル事ガ出来ヌ、從ツテ、語  
 ガ代表表象トナツテ来ル。即チ、斯カル場合ニ  
 ハ語ノ表象ト感情ニ近い様ニ語ノ意味ガ結合シ  
 テキル。ソノ莫カラ見テモ、言語ハ單ニ思想表  
 表ノ道具ニアルノミナラス、思考ソノモノノ有  
 カナル手段トナツテ来ル。勿論、コ、ニ言フ言  
 語ト云フノハ普通ノ自聲語バカリテナク、唯  
 場合ニ見ル如キ、自聲語モコノ中ニ含まレテキ

ル。

斯カル判断ヲ概念ノ更ニ進シテ莫ク論理学ニ  
 入ツテ行カネバナラス。ソシテ、言語ト思考ノ  
 關係ハ更ニ詳シクハ、言語心理学ニ於テ、殊ニ  
 民族心理学ノ一部分ニ入ツテ行カネバナラナイ。  
 ソレカラ、思考ニ関シテ詳シク置キテイテ  
 ハ、思考作用ヲ實驗的ニ研究セントスル事成テ  
 アル。此ノ學派ハ独逸ノ Würzburg 大學ヨリ起  
 ヲツ。實驗心理学ノ進ンテ来ル 20 世紀ノ初メ  
 ノ事アル。心理学ニ於ケル實驗ガ萌芽ナルモ  
 ノヨリ次第ニ複雑ニクモノニ進ミ、思考作用ニ  
 及ンテ来アル。Marbe ニ始マリ、Watt  
 Messer, Bühler 等ノ人々ニヨリテ develop  
 ナレタ。故ニコノ學派ノコトヲ Würzburg 學派  
 ト云フ。ソノ方法ハ思考作用ヲ伴フ課題ヲ  
 被験者ニ與ヘテ、ソノ問題ニ就イテ考ヘサセル。  
 但シ、ソノ問題ハ簡單ニ yes カルカ否ヘフレ  
 ルモノテ、ソノ答、後、内觀ニヨリテ考ヘテキ  
 ル間ニ如何ナル思考作用ガ起ツクカヲ云ハセル  
 ノテアル。ソノ一例ハ、Bühler ノヤツノ實驗  
 ナ。彼ノ先生ノ Külpe が被験者トナツク。ソ  
 ノ時ノ問題ハ、「汝々ハ我々ノ Denken (思考)

ヲ以テ *Denken* ノ本質ヲ把握スル事ガ出来ルカ  
ト云フ問題ヲアツク。Külpe ハ、ナ秒ノ後、  
“ja” ト答ヘテ、ソノ時ノ内観ノ報告ハ次ノ  
如クテアル。「問題ガ最初、滑稽ニ感ゼラレタ  
ソノ時、之ハ冗談中分ノ問題ヲアルト考ヘタ  
ソノ時、突然自分ニ浮ンタノハ Hegel ガ Kant  
ヲ攻撃シタ事テアル。ソコテ、私ハ断然 “ja”  
ト答ヘタ。Hegel ノ攻撃ノ思想ハ可成リ整テ  
アツク。(ツマリ、可成リ評シテ浮ンテ来テ)  
ソシテソノ時ニハ精密ニドンナ事ヲアツツカ、  
知ツテ来テ。然レ、ソノ際、一語モ飛シ科ナカ  
ツク。又何物ヲニ表象シナカツク。又 Hegel  
ト云フ言葉ガ目今ニ追加的ニ頭ニ浮ンタ。ソレ  
テ、ソノ言葉ハ聴覚運動的ニ浮ンテ来タ。」ト  
云フ。

コノ學派ニ對シテ Wundt ノ一流ハ、コノヤ  
リガヲ非常ニ攻撃シテ、一休、是等ノ実験ハ、  
実験ノ要件ヲ満たシテ来ナイ。即チ Schein-  
experiment (似而非ナルモノ) テアル。ソシ  
テ被験者ノ方カラ見テ Ausfrage Methode  
即チ問ヒ詰メル方法テ、コノ行キ方ハ何等ノ價  
値ナシ、ト非難シタ。コノ方法テ *Denken*

ヲ研究スルナラ、実験的ニ方法ヲナシ、モヤリ  
自然的ニ自覚状態ヲ捉ヘナケレハナラス。ソレ  
ガ爲ニハ *Denken* ノ自然的ニモノテアル言  
的、方法ヲ取ラネバナラス、ト云ヒ、コノ両派  
ノ間ニハ激シイ論争ガ行ハレタ。

勿論、*Denken* ノ研究者トシテ Würzburg  
學派ノ行キ方ハ或ル程度ニ止メネバナラヌモノ  
デ、ソレヲ以テ、*Denken* 全体ヲ研究スル事  
ハ無理テアル。然レ、Wundt、エナ知ノ、全  
然、無價値ノモノテハナイ。ソシテ、コノ  
Würzburg 學派ハ心理学上ノ色々ノ新シイ術語  
ヲ用シテ来ル。殊ニ “Bewusstseinslage”  
(conscious attitude) 「意識態度」トイフ  
語ノ如キハ、注目ニ値スル。即チ、知的作用ノ  
場合ノ色々ノ感情、或ハ全体表象ノ如キヲコノ  
學派ハ通用シテ来ルノテアル。エナ知ハ全然、  
無價値ノモノト称スルノハ酷テアル。ソシテ、  
斯ル形式ノ思考ノ実験ハ可成リ無理ハアルガ  
コノ方法ハ尚、今日ニ於テモ可成リ用ヒラレテ  
来ル。



### 第二十章 感情

感情 = 関スル個々ノ記述 = 関スル事ハ略シテ  
 主ナル学説 = 概イテ述ベル。感情ヲ取扱フ際ニ  
 是ル問題ハ、先ヅ学説ノ前ニ、感情ノ現象及ビ  
 感情ノ事實 = 関スル現象学的ナ問題ガアル。  
 ソレハ感覚ノ問題ヨリ更ニ動搖シテキル。ソノ  
 主ナル問題ヲ挙ゲテ見ル。

第一、感情ト云フモノハ、ソレ自身知覚中表  
 象ト同ジ様ニ特定ノ Object (対象) = 対スル  
 Act (作用) テアルカ、ドウカ、或ハ一種ノ状  
 態テアルカ、換言スレバ、真ノ act ガ意識ナ  
 レル所ノ状態テアルカ、ドウカトイフ問題デア  
 ル。コレハ殆ド、第二ノ考ヘ方ニ一致シテキ  
 ル。コノ問題ハ既ニ Aristoteles ノ頃カラ、  
 考ヘラレテマリ、彼ニ於テモ感情ハ精神ノ変化  
 テアルト、考ヘラレテキヌ。ソレ以来、コノ考  
 ヘ方ガ行ハレ、近キニ於テモ有名ノ感情研究家  
 ノ Nahlomsky (1862) ノ如キモ、感覚ニ伴  
 フ快、不快、即チ感覚ノ調子トク情潮 (Gefühlston)  
 ト云ハレルモノヲ述ヘテキル。

第二、感情ヲ単ニナイ感覺ガアルカドウカノ  
 問題デアル。コレハ前ノ問題程一致シテマラ  
 イ。而モ、コノ問題ハ新ニ心理学ノ問題ニ成  
 シ、之ニ対シテハ兩説ガ行ハレテキル。即チ一  
 方ニ於テハ感情ノナイ感覺ヲ認メル。他方ニ於  
 テハソレヲ否定スルノキアル。例ヘバ、快不快  
 ノ感情 = 概イテエフナク、快アモナク、不快ナ  
 クナイ状態 (Neutral: Indifferent: 無感  
 ノ感情、(或ハ捨ノ状態ト譯ス者ガアル) ガ有リ  
 得ルカ、ドウカト云フノデアル。寧ロ、コレハ  
 認メラレル説デアル。

第三、感情ノ種類ノ問題デアル。方向  
 (Dimension) = 概イテ、問題テアツテ、之ニ  
 ハ方向ハ一ツシカ無イト云フノト、概シモアル  
 ト云フ説ガアル。方向ト云フノハ快、不快ノ方  
 向ト云フノデアル。ソコニ、從來ノ考ヘ方テハ  
 快、不快ノ一方向ヲケガ認メラレテキヌ。ソレ  
 テ、今ロニ於テモ、コノ方向ハ無論否定スル人  
 ハナク、スコノ一方向ノミヲ認メル学者ガ今ロ  
 モ多数デアツテ、之ハ問題テナク、少方向ヲ認  
 メルカ、否カト云フ事ガ問題デアル。Wundt  
 ハ、三方向、即チ、

(1)、快、不快、外ニ

(2)、興奮、沈静

(3)、緊張、弛緩

ヲ認メルノチアル。

Royceハ、快、不快、他ニ、不安ト安静  
(restlessness and quiescence)ヲ立テテ。

Jitchener、心理学テハ感情ハ pleasant  
and unpleasantニ、ソレヲ sensationト  
結合シテ sense-feelingヲ作ル。之ガ三方面  
ニナルト云フノチアル。

1. Agreeable, Disagreeable
  2. Exciting, Subduing
  3. Straining, Relaxing
- ヲ挙ゲテホル。

コノ問題、中テ、快、不快、dimensionハ  
問題ニナラナイ。他、ニツガ問題ニナル。即チ、  
ソレハ、感情ヲ感覚リノ問題ニアル。一方向ノ  
人ハ、感覚ヲト云フガ、多方向説、人ハソレモ  
感情ヲト云フ。而シ、ソノ感情ニアルト云フ根  
據ハ、一ツハ感情ニ伴フ表情、方カラ説ク。  
コノニツノ感情ニ應ジテ火々違ツタ表情ガ伴フ  
ノチアル。然シテラ、コノ根據ハ余リ有カトハ

云ハレス。ト云フノハ、ソノ生理的変化ハ感覚  
ニ伴フトモ、感情ニ伴フトモ考ヘラレルカラチ  
アル。ソレヲ、多方向説ヲ主張スルモソト有リ  
ナ理由ハ高等ト複雑ト感情生活チアツテ、コレ  
ニハ快、不快ノ感情ヲ説明スルニハ、余リ  
ニ單純過ギル。ソコニ多方向説ヲ新シク方ガ、  
説明ニ便利チアル。

第四、感情ノ質 (quality)ハ同質ト異質ト  
ノ問題チアル。例ヘバ、快、不快ハト、場合ニ  
モ共通的、モノチアツテ甘味ニ計スル快ト、快  
イ否ヲカイタ場合ノ快ト同質カ、ト云フ問題ガ  
アル。Cbbinghaus、如キハ同質ト論ズル。  
異質ト見ル人ハ Wundt, Messer、如キ人ハ  
色々ノ質ヲ認メル。コノ問題ハ内観ヤ表情ノ方  
カラ決ルモノチナク、我々ノ感情生活ノ種々様  
々ノ方面ヨリ感情ノ異質性ヲ認メテ方ガ便利チ  
アル。

以上ハ、感情ノ事實ニ説イテノ theoryニアル。  
所ガ更ニ感情ノ性質ニ入ルト云フト、ソコ  
ニモ欠張りモロモロノ説カ認メラレル。先ツ  
ソレハ、四ツノ主ナル theoryニ分ケラレル。

1. 主知的 (intellectualistic)

- II. 精神機械的 (psychomechanical.)
- III. 生理学的 (physiological)
- IV. 精神物理的 (psychophysical)

第一ハ、感情ヲ以テ認識、特殊、作用ト認メ  
ルニ、チアツテ、之ハ最モ古イ考ヘ方テアル。  
既ニ、Aristoteles カ快、不快ヲ肯定、否定ト  
比較シ、Stoa 学派ガ、感情ヲ以テ将来又ハ、  
現在ノ幸、不幸ニ対スル Brief = 帰着シテキ  
ル。コノ主知説ハ尚ホ、Locke ノ経験説及ビ  
ソノ後継者、Leibniz ノ一派ニモ支持サレテキ  
ル。

Locke ノ考ヘ方テハ、快 不快ヲ以テ、  
simple idea ト考ヘ、ソレハ精神、色々ノ状  
態ニ關係スルモノト云ツテキル。Leibniz =  
アツテハムンロ形而上学的ニ、感情ヲ暗イ表象  
(dunkel Vorstellung) ト結合シテ考ヘク。  
之カ後、Hegel = 追成ル。Wolff = ナツテ、  
Leibniz ト異リ感情ヲ以テ身体ノ状態ノ直観的  
認識トシテ、ソノ状態、完全、不完全ニコソテ  
快、不快ガ生スルト云フ。コノ完全、不完全ト  
云フ事ハ十八世紀、倫理ガ道德美学、理想タル

完全トイフ概念ヲコ、追成テ来ツノテアル。  
ソシテ、コノ思想ハ尚、後、Fetens & Kant  
ニ追影響シテキル。例ハバ、Kant ガ愉快ト云  
フノハ、コレハ Leben、促進テアリ、苦痛ハ  
Leben ノ邪魔サレテ場合ト云フ。コノ考ヘ方  
ハ尚ホ、Lotze = モ取ハレテキル。斯ノ、  
感情ヲ以テ知的作用、一ツト見ルノテキル。

II. psychomechanical Theory,

コレノ代表的、モノハ Herbart ノ学説ナ  
アル。Herbart ハ感情ノ表象ノ關係ヲ説明  
用スル、sinnlich、感情ト指諾(複雑ナル  
感情)トヲ分ケルガ、sinnlich ナルモノモ  
部分表象カラナルガ、コノ時ハソレガ、分ケ  
ラレテキナイ、ソシテ後者ハハツテリ合ケラ  
レテキル。

何レニシテモ、Vorstellung、相互關係カ  
ラ説明セントシ、而モソレハ mechanical ナ  
アル。精神作用ヲ機械的ニ解スル事ト表象ヲ  
要素ト考ヘル。コノ二支ニ離英ヲ有シテキル  
Herbart、機械的ノ見方ハ後、Herbart 学  
説ニ支持サレシキル。

・ 他ノ Herbart = 似テキルノハ Binckel

テアル。

第二、説ハ生理学説テアル。之ハ感情ヲ以テ、  
特殊、神経作用ニ帰着スル。殊ニ大脳、作用  
ニ帰着スル。之ニニツノ型ガアツテ、ソノ一  
ツハ感情ソノモノヲ以テ、一ツハ感覺ト認メ  
ル。又、コノ感覺ハ最も一般的ノモノニアツ  
テ、他ノ凡テ、感覺ト伴フモノテアルトモア  
ソシテ、コノ感情ノ *trägerinner organ*  
ノ神経ニアル。從ツテコレハ有機感覺、綜合  
ニ過ギナイトスル。之ハ從來アツタ感覺ト感  
情ノ混同ニ基イテキル。次ニ、第一、形ハ、  
中絶、大脳作用ト感情トヲ結び付ケルモノデ、  
之ハ時トシテハ感情ノ結果トシテ考ヘル。コ  
レハ後ニ情緒ノ所ニ違バルガ *James Lange*  
ノ思想ガ之テアル。

ソレカラ、時トシテハ感情ヲ以テ、活動ノ  
増進或ハ減退或ハ末梢機関ノ損傷トカ、ソレ  
ノ増進ト云フ様ニ場合ノ光景トシテ快、不快  
ヲ認メル。カ、ルモノガ生理学的ノ学説テア  
ル。勿論後、場合ハ *Ribot* トカ *Lekman*  
ノ説ニ属ス。感覺的ノ方面ハ勿論感覺的ニ考  
ヘネバナラヌガ感情ニハナシ。

第四、之ノハ精神物理的ノ *theory* テ *Wundt* 一  
派ノ主張スル所テアル。心理的ニ感情ヲ以テ  
感覺長ネニヨリ影響ナレタル精神ノ *affection*  
ト見ズ、又 *Herbart* ノ様ニ表象、相互關係ヨ  
リ生ズル、トモ認メナイ。又經驗的、主観的  
*Factor* ト考ヘル。尚ホ、詳シク云ヘバ個々  
ノ意識内容ニ對スル純粋、又應ト考ヘル。ソ  
シテ、ソノ感情ニハ必ず表出運動ガ伴フト云  
フ。コノ義ニ於テ、感情ハ精神物理的ノ作用  
テアル、トスル。之ガ精神物理学説テアル。

ケレドモ、コノ考ヘ方ハ生理学説ニ對シテ  
意味ガ有ルカモ知レナイガ純粋心理学ノモノ  
トシテハ時ニ物理的トモハナクテモ宜シイ。  
ソシテ純粋ニ心理学的ノ場合ヲトソテモ、經  
験、主観的 *Factor* ト云フベキテアル。或ハ  
純粋、反應テアルト云ヘバ、大體トシテノ精  
神ト云フ様ニ考ヘ方ガ起ル。斯カル意味カラ  
ソウイフ言葉ヲ使ハナクテモ可イ。精神的ノ  
義ヲ云ヘバ却ソラ無難テアル。

又一般心理学的ノ立場ナク、感通、發生心  
理学ノ立場ヨリ感情ヲ論スル一派ガアル。ソレ  
ハ *Holwicz* (1878) テ、故ハ感情ハ最も本原

的ナ独立ナ精神状態ニアツテ、コレカラ感覚表  
象ガ發展シテ来ヌモノト考ヘタ。コノ思想ハ前  
今日迄部分的ニハ行ハレテキルノデアツテ、例  
ヘバ *Titchener* ノ如キモ感情ト云フモノハ  
*general kind* (一般の、種類) ノ *mental*  
*process* テアツテ、感覚ト同ジ物ニアル。若シ  
コノ感情ガ一層都合ノコイ條件ニ置カレタラ、  
感覚ニ發展シテアラウト云フ。コノ考ヘ方ハ  
今日 *Krüger* ノ心理学ニ於テ、感情的 (*gefühllos*)  
ノ状態ヲ云フ。之モ又源リ同ジク感情ヲ基ニシ  
テ説ク。

以上述ヘテ来タノハ感官的ノ感情ニ説イテ  
アル。之カラ一歩進ムト、知覚ニ伴フ感情、或  
ハ表象ニ伴フ感情ニナル。コレモ色々ノ種類ガ  
アル。ソノ主ナル形ハ簡單ナ美的感情ニアル。  
普通ニ考ヘテキル美的感情ハ最も複雑ナモノテ  
アルガ、コノ上ヨリナルモノテアル。音、調和  
ノ感情、リズムノ感情、格恰、コシアシ、奇ニ  
関スルモノヲ云フ。コノ美的感情ヲ考ヘテ見ル  
美的感情ノ研究ハ多クハソノ高等ナ複雑ノ形  
ガ扱ハレテキテ、ソノ主ナル方面ハ軽視サレテ

キタ。ノミナラス、近代ノ美学ハ、*K. Wolff* ノ  
論理的ノ形式主義ニ受ケレテキテ、美的感情ヲ  
直接ニ研究スル代リニ、美的ノ把握ハ認識ノ概  
念ナリト見タノニアル。ソノ考ヘ方極度シテ  
*Kant* ニモ尚、ソノ影響ガ残ッテキル。即チ、  
美的ナルモノヲ判断カニ歸着セシム、ソノ判断  
力ナルモノハ悟性ト理性トノ中間ニ位スルモノ  
ニ考ヘテアル。然レ、*Kant* ニ於テ古ノ考  
ヘラレテキル *Vollkommen* (完全) ノ唱イ  
認強ト云ノ様ニ完全ト云フ概念ノ代リニ今日の  
ト云フ事ガ美ナリト考ヘノ。コノ *Kant* ノ思想  
ヲ出タモノガ二ツニ分レ、一ハ *Schiller*、一  
ツハ *romantisch* ナ考ヘ方テアル。

*Schiller* ナ始メテ、遊ビ (*play*) ト云フ概念  
ヲ以テ来テ、心理的ノ源トシテ遊戯衝動ヲ藝術  
ノ本源トシ、藝術ノ概念トシテハ、美的・假象  
(*schöne Schein*) ヲ産出スル事ト云ツタ。  
コノ *Schiller* ノ思想ハ、最近迄部分的ニハ、  
採用サレテキル。

他方ニ於テ *Roman* 派ノ美学ハ、コレハ  
*Kant* コリ来テヨリ、等々哲学ヨリ来テアル  
モノデアツテ、心理学ニハ貢献スル所ナカッタ。

美的ト云フノハ *Geist*、意連ニ於テ中間的  
段階ト述ベタ。所カ斯カル哲学的思想ニ反抗シ  
テ美的判断ノ客観的、條件ヲ次メ様トスル傾向  
ヲ起ソタ。ソレガ *Herbart* テアル。ソシテ、  
彼ニ於テハ、前述ノ如ク表象、相互關係ヨリ説  
キ、而モ美的判断ト云ハレル様ニ判断、形ヲ考  
ヘタ。

ソ、後ノ心理学的ノ美学ハニツノ源泉ヨリ起  
ツテ来テキル。一ツハ *Fischer* ノ思想ヲ、  
*Herbart*、*Formalism*ニ影響テレテキテ、美  
学ヲ実験的ニ帰納的ニ研究シタ。*Fischer*ハ  
比率的簡單ナ形ヲ取扱ヒ、ソレヨリ種々ノ象則  
ヲ立テタ。例ヘバ粒多(多様)、統一、結合  
ヲ説イタ。モツ一ノハ、之ト反対ニ帯ロ心理的  
ノ内容ヲ重シヨモテ、之ハ *Wahrheit*ト  
*Lipps*トガ独立ニ提唱シ出シノモノデ、感情移  
入(*Einfühlung*)ノ説チアル。コレハ自分ノ  
心持ヲ外物ニ移シ入レルト云フ、ソコニ美的  
感情ノ條件ガ起ル。

美的感情ニ就テハ色々ノ方面ヨリ説ガ立テラ  
レテキル。ソシテ何カ美的アアルカ、ハヒツト  
他ノ場合ヨリ決定サレネバイラナイ。コ、チハ

知覚感情ノ一ツトシテ考ヘルノチアツテ、一種  
ノ統一、感情ト思スベナラヌ。ソシテ、感  
情ハ知覚ヲ表象ニ伴フモノテアル。統一ノ全  
体ト云フ所ニ前ノモノト違フノ特色ヲ有スル。

知覚感情ヨリ又ニ進ンテ情緒(*Emotion*;  
*affekt*)ノ問題ニ入ル。情緒ニ就テハ色々ノ  
問題ガアル。例ヘバ、情緒ノ分類、問題ヲ、喜  
悲哀懼與悲歎(七情)、喜怒哀樂愛惡(六情)  
ノ如キガソレノアル。斯カル常識的ノ區別、他  
ニ科学的ノ分類ガアル。又情緒ニハ表情ガ伴フカ  
ラ、ソコニ表情ノ問題ガ一ツアル。

次ニ情緒ソノモノノ性質ニ就テ見ル。

之ハ初メノ頃ハ實際的、倫理的ノ立場ガ少カ  
ツノ。ソレガ長イ間流イテ、17. 子々純境ニナツ  
テ初メテ情緒ノ細カキ分類ガ起ツテ来タ。然レ  
尚、ソレハ倫理的ノ見地ヲ持ツテキタ。近代ノ  
モノハ、カ、ル見方ハ除カレタ。ガ、尚、從来  
カフノ傾向ニ從ツテ、ニツノ主ナル學說ニ分レ  
ル。ソノ一ツハ主知説チアツテ、他ノ一ツハ、  
*emotional theory*チアル。コノ主知説ノ第  
一ハ倫理的ノ説チアリ、他ノ一ツハ聯合説、及  
ビ感覺説チアル。ソノ中、倫理説ハ *Brentano*

的

一説ニ代表サレ、即チ情動ハ字觀印象ニ対スル  
一ツノ判断ナリトスル。 第二、新合説テハ、  
情動ハ聯想カラ起ルノ事ト云フ、或ハ Herbart  
、如ク表象相互ノ禁止或ハ促進カラ説ク。

第三、感覺説ハ先程云ツタ Jamesノ theory  
ト云ハレルモノ也、即チ情動ハ表情運動ノ結果  
トシテ起ル。有機感覺、筋肉感覺、総括テアル  
ト考ヘル。 Jamesノ言葉ニヨルト身体的、変  
化ガ直接ニ判断スルモノ、知覚ニ次イテ起ル。  
ソレヲソノ変化ノ感シガ Emotion テアル。ソ  
シテ、我々ハ悲シイカラ泣クノ事ナク、泣クカ  
ラ悲シイノ事ト云フ。斯カル矣コリシテ情動ヲ  
表情ノ結果トスル。斯カル矣普通ノ説キ方ノ原  
因説ニ対シ結果説 (Effect theory) ト云ハレル  
コレト同シ様ニ Langeガ同シ様ニ思想ヲ感  
シタ。只彼ハ情動ヲ血管運動的ノ結果トスル。  
例ヘバ、驚イタ場合ノ鼓動ノ如キテアル。勿論  
コノ学説ハ或ル程度迄真理ヲ含ミ、從來云ハレ  
ナカツタ矣ヲ合シテキル。然シ、一面カラ吾  
ト偏頗ニ見方テアル。ト云フノハ表情ノ変化性  
ハ情動ノソレコリ多クナリ。殊ニ最近ノ内分泌  
ノ研究ニヨルモノハ之ニ反対ノ傾向ガアル。

斯カル矣コリ見テ、情動ト表情ノ關係ハ最初、  
情動カ起ツテ、次イテ表情ガ起リ、ソノ表情ノ  
結果トシテ情動ガ強メラレル。 James Langeノ  
説ハ後、半分ヲ考ヘテアリ、普通ノ説ハ前半ヲ  
考ヘテキル。之ハオモトク原因トナリ、結果トナ  
ソナナキレバナラナイ、何レニモテモ、コノ  
三ツハ主知説テアル。ソレニ対シテ Emotional  
theory ガアル。

之ハ Wundtニ依リ theory ナリ、要スルニ、  
感情的ト云フヘキモノ也、之ハ情動ヲ知的ナレ  
ノニ解サスシテ感情ノ一種ト見ル。此ケ感情ト  
シテハ他ノ感情状態ト違フメ状態ヲ有ツテチ  
感情的ニハソノ前後ノ状態ト区別サルベキ普通  
ノ状態テアツテ、ソレハ前ノ知覚感情者ニ比バ  
ルト、モツト強イ影響ヲ主体ニ及ボテモ、テアル。  
コノ立場ハ無論情動トシテ改テラレベテ  
アルガ、Emotionト云フ良イカ否カノ問題ニ  
ナル。

コノ情動カラ更ニ進ムト情操 (Sentiment)  
トナル。之ハ復雜ニ知的作用ニ伴フ感情アツ  
テ、或ル意味ニ於テハ文化意識ノ感情的方面ト  
ナル。普通ノ余々方ニヨルト論理的、倫理的、

宗教的、美的トナル。論理的ナルモノハ凡テ論理作用ニ伴フ情操ヲ、疑問、矛盾ノ感情ヲ云フ。倫理的ノ情操ハ善ヲ好ミ、惡ヲ憎ムトカ、良心ノ苛責、様々道德的意識ニ伴フモノナル。宗教的情操ハ、畏敬トカ懺悔ノ心持等ナル。美的情操ハ普通ニ云フ美的感情ナル。例ヘバ滑稽、如キモノナル。故ニ情操ハ論理的等ノ感情的、モノヲ云フ。故ニ情操ヨリ感情ヲ切り離シテ説ク事ハ出来ナイ。又同時ニ、表出作用ヲ除イテハ考ヘラレズ、意識全体ヨリ考ヘネバナラス。

第二十一章 意志

意志説ハ古代及ビ中世ヲ通ジテ若干ノ心理学的ノ断片ハ合マレテキルガ、大体ガ倫理的ノ問題ヲ自由意志ノ問題ガ中心ヲナシテキル。ソノ後意志ト悟性トハ句レガ上位カ、問題ガ喧シクナツテ来テ、暫ク自由意志ノ問題ハ背景ニ隠レテキルガ、又最近論ゼラレテ来タ。即チ Kant ハ意志ハ認識的能カニ属シ、自然ノ因

果律以外ノモノナル。ソシア自由意志ノ困難ヲ扱ハントシタ。コノ Kant ノ説ヲ扱ハントシテ色々ノ意志ノ哲学ガ起ソテキル。然シ、之ハ絶対的ノ意志説ナル。

コノ考ヘ方ハ、本来心理学以外ノ問題ナルガ、而シテ心理学ニ影響ヲ以テ抽象意志説ニナツテキル。ソレハ、意志ハ一般的ノ精神カニアツテ、各々ノ個人ニ於テハ、constantノモノナルアツテ、他ノ意識内容ニアツテハ独立ノモノヲ云フ。例ヘバ、James ハ意志ノ fiat (命令)ト云フ言葉ヲ使ツテキル。或ハ Würzburg 学派ノ "Ich will" トカ "Ich kann" ト云フ言葉ヲ使フ時ニハ、尚絶対的ノ意志ヲ、コノニ考ヘテキルノナル。コレハ普通ノ心理学ノ考ヘ方ハナイ。

心理学ノ問題トシテノ意志説ハヤハリニツノ大キナ groupニ分レ、一ツハ主知説、一ツハ感情説ナル。主知説ト云フノハ、或ハ association ヨリ説キ、或ハ論理作用ト見、或ハ感覺ト見ル。

聯合カラ説クト云フノハ Herbart ノ様々考ヘ方ナル。例ヘバ、一ツノ表裏 a, b, c,

心理  
(三)  
十一  
内



之ガ反対ノ表象、=ヨリ、抑ヘラレテナルト  
 aヲ強メル表象C、ガアル。之レガ欲望ノ状  
 態テアル。コレガ満足サレル時=初メテ意志ト  
 ナル。コノ様ニ、聯合關係ヨリ説ク。論理説  
 ハ意志ニ於ケル決断テアル。感覺説ト云フノハ  
 意志ノ最初ノ形ハ、運動感覺ガ浮ノテ来テ、  
 レガ實際ノ運動ニナルト云フノテアル。例ヘ  
 バ、Spencerノ考ヘ方ハコレテアル。

何レニシテモ主知的ノ考ヘ方テアルト、意志  
 ノモノヲ知ノ方面カラ説イテ来ル。所ガ、實  
 際、意志ノ方カラ説イテ来ルト、感情ノ状態ト  
 ナル。コノ考ヘ方ハ色々ノ人ニ説カレテ来テ、  
 既ニ、Humeハ意志ハ特有ノ感情ノ進行ナシニ  
 ハ説カレヌ、ト云ツテ来ル。又先ノHolmiezモ  
 感情ヨリ表象ヲ意志ヲ説イテ来、之レヲ衝動ニ  
 基ケル。又Lipps, Wundtモ、コノ傾  
 向ニ属スル。即チ、感情ヲ意志ノ一ツトスルナ  
 ラドウイフ形ニナルカ、ト云フ事テアル。又  
 終リノ段階ニ特色ガアル。情緒ノ場合ニハ、表  
 情ガ伴ヒ、自然ニソレガ消エルガ。意志ノ場合  
 テハ動作ガ起リ、動作ノ前ニ動機ガ出テ来ル。  
 ソンテ動作ニヨツテ前ノ感情状態ニ、突然ト代

ツテ序ヲ=消エル。

最後ニ、知、情、意ノ三ツハ合シテ人格トナ  
 ル。コノ異ツテ個人ノ人格ノ人用ガヨリ兼ツテ  
 社会ヲナス。ソシテ、コノ社会ハ周囲ノ自然的  
 ノ環境ト相關ヲモク、又時間的ノ持続ヲ持ツ。  
 テアルカラ、個人ノ精神作用ト云フモ、結局、  
 ソノ意味ヨリ考ヘネハナラヌ。又純粹ニ個人ノ  
 立場ヨリ云フナラバ、自然的ト、社会的トノ關  
 係カ出来テ来ル。斯ケル所ニ来ルト、普通心理  
 ノ立場ヨリ、ズント応ラツテ来ル。

心理 (三)

— 終 —

昭和12年2月25日

---

昭和12年2月27日印刷

全 年 3 日 3 日 発行

責任者 坂井 十二郎

印刷所 帝大フォリント聯盟印刷部

發行所 帝大フォリント聯盟

東京都文京区森川町74

---

特 253

815

¥0.30

終